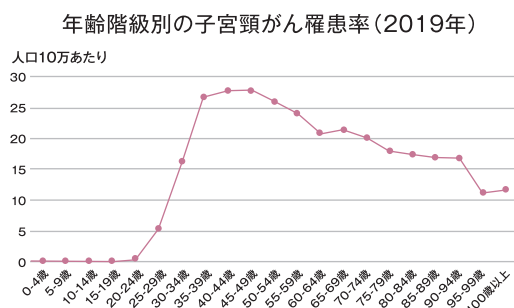




子宮頸がん検診について

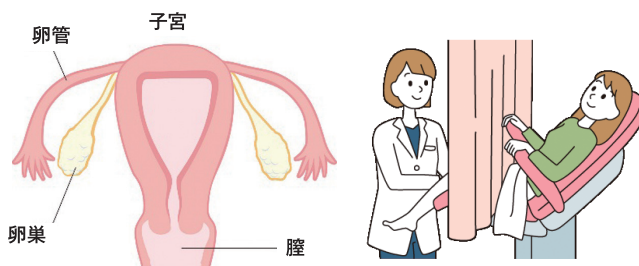
子宮頸がんの特徴

- ① 子宮頸がんは年間約1万人が罹患し、約 2,800 人が死亡しています。特に、20～40 歳代の若い世代での罹患が増加しています。
- ② 子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が関連しています。HPV は性交渉歴のある 80% 以上が一度は感染すると言われていますが、ほとんどの人では自然消失します。ごく一部で感染が持続し、前がん病変 (異形成) を経て、子宮頸がんになります。軽度の前がん病変の 80% はがんに進展せず、一部は自然に消えてなくなります。
- ③ 子宮頸がん検診では、がんになる前の変化を見つけることができ、子宮頸がんの予防につながります。



子宮頸がん検診の方法

- ① 子宮頸がん検診は内診台にあがり、子宮頸部 (子宮の入り口) を、ブラシなどでこすって細胞を採取して調べます。痛みはほとんどなく、数分で終わります。
- ② 検診で「要精密検査」の結果が来たら、子宮がん検診精密検査実施医療機関を受診してください (実施医療機関は巻末参照)。多くは前がん病変 (異形成) ですが、異形成の程度や治療の必要性などの判断を組織診・細胞診・HPV 検査などを組み合わせて行います。



メッセージ

- ① 異形成や初期の子宮頸がんはほとんど自覚症状がありません。定期的ながん検診を受けること、および月経以外に出血などが見られたら、産婦人科を受診し、できるだけ早期に発見することが大切です。
- ② また子宮頸がんの約95%がHPVの感染によるものとされています。感染予防のためのHPVワクチン接種の有効性も示されており、対象の方は接種を検討してください。
- ③ しかし、HPVワクチンで100%の予防はできないためHPVワクチンを接種していても子宮頸がん検診は必要です。20歳を過ぎたら2年に1回、子宮頸がん検診を受けましょう。